

「こんな政治を変えたい」と願うみなさんと力をあわせ

岸田政権
自民党

底なし金権腐敗政治一掃

「しんぶん赤旗」スクープが追い詰める

日本共産党の「しんぶん赤旗」による自民党の裏金疑惑スクープが引き金になり、底なしの金権腐敗政治の実態がクローズアップ。マスメディアの報道が追い打ちをかけ、自民党全体の組織的犯罪に国民の批判が沸騰しています。誰がどれだけの裏金をつくり、裏金を何に使つ

たのかー。岸田政権と自民党の中から真相解明の動きはまったくなく、派閥幹部らは会計責任者や秘書らに責任を押しつけ説明責任を放棄。最新のNHKの世論調査では、9割が「説明責任を果たしていない」、6割が自民党対応に「評価しない」と回答しています。自らの疑惑が問題になるなか、疑惑の徹底解明に背を向けつづける岸田首相の責任が厳しく問われています。

“裏金”
自民 82議員

“闇金か”
松野前官房長官

“全部不明”
萩生田前政調会長

“二重計上”
茂木幹事長

“隠ぺい”
岸田首相

政治資金パーティーのキックバック（還流）分を政治資金収支報告書への不記載で「裏金づくり」と大問題に。自民党のアンケートでは同党議員82人、5年間で総額5・8億円が不記載。「裏金」の使途説明がなく、「裏金づくり」を指示した首謀者も不明。アンケートは「反省のないアリバイづくり」と批判を受けています。

昨年12月、裏金問題で更迭された松野博一前官房長官が105万円の裏金が発覚して退任するまでの2週間に、官房機密費から自らに4660万円を支出。「政策推進費」と説明しながら具体的な内容には口を閉ざす態度。このため「『闇金』として使っていたのでは」など、国民の批判が噴出しています。

安倍派の有力幹部「5人衆」のひとり、自民党の萩生田光一前政調会長は、派閥の政治資金パーティー裏金事件を受けて、政治資金収支報告書の支出欄などを「使途不明、金額不明、時期不明」で公表。同氏は「何かを」まかしたり、隠したりする意図があつたわけではない」とコメント。安倍派事務局から還流分を「報告書に記載しないようにとの指示を受けた」ため領収書を廃棄、紛失したと言い訳に終始。

自民党の茂木敏充幹事長が2021年の衆院選に際し、栃木県選挙管理委員会に提出した「選挙運動費用収支報告書」と、茂木幹事長が代表を務める政党支部の政治資金収支報告書（21年分）には、同日付で同じ会社に4万数千円を支出。添付された領収書の写しと支部の収支報告書の領収書の写しが、日付や宛名、金額に至るまで全て同じ筆跡。選挙経費を1枚の領収書で使い回した“二重計上”に公選法違反の疑いも浮上。

岸田首相は、昨年12月15日に都内のホテルで開く予定だったパーティーを「延期」。会費は2万円。問題は、『中止』ではなく、『延期』にしたこと。中止すればパー券の返金が必要です。『延期』としたのは、どの企業がいくら購入したかなどパー券購入者を隠蔽するためではないかとみられています。すでに力不足を集めているのに、いつまでも『延期』するわけにはいかず、かといって開催したら、国民から猛批判を浴びるのは必死。

金権腐敗政治を一掃するために…

日本共産党の提案

企業・団体献金・政治資金パーティー
政党助成金（税金による年間320億円）

全面禁止
廃止

自民党の裏金疑惑など腐敗政治の根本的解決の道は、パーティー券によるものを含めて企業・団体献金を全面禁止にすること。日本共産党は国会で疑惑の徹底解明を主張し、国会に企業・団体献金全面禁止法案と、国民の税金による政党助成金の廃止法案を提出しています。

金権政治一掃へ署名→



政党助成金の創設から30年、自民党への交付総額は4407億円に。「政党助成金をつくる代わりに企業・団体献金は禁止」と約束していたはずですが、政党助成金は受け取りながら、企業・団体献金は抜け穴を用意し、パーティー券で荒稼ぎし、裏金づくりまでシステム化。国民に対して二重三重の裏切り。日本共産党は両方とも無縁です。

2024年2月号外 日本共産党の見解を紹介します。

革新のひろば

発行 日本共産党神奈川県委員会
住所 横浜市神奈川区西神奈川1-18-12
電話 045(432)2101 FAX 045(432)2103

- 毎日の日刊紙は月3497円。
- 毎週1回の日曜版は月930円。
- 電子版も発行しています。

「しんぶん赤旗」の申し込み→

